

資料

沖縄の子どもの貧困問題に関する主な新聞記事タイトル一覧(2017年度)

嘉納 英明*, 塚澤 誠志郎**

List of newspaper articles on the issue of poverty for children in Okinawa (2017)

Hideaki KANO*, Seishiro TSUKAZAWA**

〈二紙の記事を読んで～「息の長い」報道とは何か～〉

「新聞週間/『貧困報道』丁寧^に息^を長く^く」(2016年10月15日付、沖縄タイムス社説)

「子どもの貧困対策/息^の長い^い取り^組み^が必要^だ」(2016年1月27日付、琉球新報社説)

● 比喩という衣

「息長く」報道するとか「息の長い」報道とかいった表現は、比喩と呼ばれる。もはや比喩とも意識されない程に人口に膾炙され続けているかもしれないが、報道は息をしないのだから、やはり比喩である。人間についての文脈であれば、「息」は裸のままその文章の一部にもなり得よう。ところが、ひとたび別の文脈に向くときには、「息」は比喩性の衣で正装する。

さて、本稿で問題にしたいのは、「息の長い」という言葉が比喩として使われるはず文脈で、その比喩性の衣を脱いでしまうことがある、ということである。沖縄の主要二紙における貧困報道において、そのような事態が起り始めているのではないか。

● 変化を欲するジャーナリズム

息は切れる。どんなに膨大な肺活量を誇っていても、いずれ息は切れる。そして、生きるためには、また代わりの新しい空気を体内に取り込まなければならない。それに抗えば、息を引き取ることになる。新聞もまた同じである。

ジャーナリズムは本来、安定的で公正な社会の形成を期して行われるものであると思うが、皮肉にも、その目的を完遂するということは、同時に自分自身の破滅をも意味する。なぜなら、ジャーナリズムが酸素の代わりに取り込むものは、不安定性が維持された社会に担保された変化だからである。変化とは、ある種、不安定性が安

定を求めるときの運動のことであるといえる。だとすると、安定性を獲得した社会では、不安定性から安定性への運動は存在しないのだから、その社会ではジャーナリズムの欲する変化(酸素)は存在しないのである。

このように、報道はまさに呼吸のようである。そう考えてみたとき、「息の長い」報道という表現は、報道の本質を突いた、卓抜な比喩表現であると言えるかもしれない。

● 比喩性の衣を脱ぐ

しかし、である。果たしてこの表現は、貧困報道についての表現として適切だろうか。というのは、息はいずれ切れるものであるなら、その貧困報道もいずれ細々と消えいってしまうということになってしまわないだろうか。もちろん、本来はその逆で、「息の長い」報道という比喩表現によって、絶え間ない継続的な報道の必要性を強調したかったのだろう。それはわかる。しかし、現実には、あたかも息が細っていくように、貧困に関する報道の数も細っている。(上記の社説が書かれたのは両紙とも2016年のことである。この時の貧困報道は確かに活発であった。沖縄タイムスは、シリーズ「ここにいるよ」で、琉球新報は、シリーズ「希望この手に」で、各紙独自の報道を行っていた。しかし、両シリーズがほぼ同時期に息をひそめ、以降、それ以前と比べて、貧困報道が活発であるとは言い難い。)

つまり、もともとの「息」の比喩性が後景に退き、現

* 名桜大学国際学群 〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 Faculty of International Studies, Meio University, 1220-1, Biimata, Nago, Okinawa 905-8585, Japan

** 名桜大学国際学群4年次 〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 Faculty of International Studies, Meio University, 1220-1, Biimata, Nago, Okinawa 905-8585, Japan

実の貧困報道の状況を皮肉る表現と化しているということである。このことを私は先に、比喩性の衣を脱ぐ、と表現したのである。

●報道と「貧困の連鎖」

ここで、そもそもなぜ貧困報道の継続性が求められるのか、その理由について少し考えてみたい。

貧困は連鎖すると言われる。連鎖の要因は複数存在するのか、それとも根本的なものがただ1つ存在するのか、それさえも定かではない。ただ、連鎖を断ち切るための金銭的な援助を行うにしても、法整備を行うにしても、貧困に対する社会の（理解を伴った）関心が存在しなければならぬことは疑いようのないことだと思う。

ところで、新聞というのは良くも悪くも世論を形成する。ある出来事を報道することによって世間の関心をそれに向かわせる。と同時に、何かを報道しないことによって、その何かに対する関心を失わせる力も持っている。もしかしたら、後者、すなわち報じられない事実こそが、水面下の氷山のように、社会を根本から規定しているのかもしれない（見えないからこそ、それは確かめようがないのだが）。

いま、貧困報道の「長い息」が切れたとしよう。すると、世間では、貧困に対する関心が失する方向へと世論は形成される。先ほども述べたように、どれだけ期待値の高い解決策が講じられても、社会が貧困についての理

解と関心をもっていなければ、それは大きなムーブメントへと昇華されることはない。運動が起こらなければ、貧困の問題もそのまま据え置かれるだけである。そうして、また貧困は連鎖する。

こうしてみると、貧困の連鎖を断ち切れるかどうかは、新聞などによる継続的な報道にかかっているといえるかもしれない。

●ほんとうの「息の長い報道」を

私はここまでで、「貧困報道について、『息の長い』なんて比喩は使うべきではない」などと言おうとしているのでは、もちろんない。両紙が用いている比喩を手掛かりに、貧困報道の現状を認識し、再度、報道の継続性の意義を問い直したかったのである。

新聞は変化を求め、また求められもする。そのような中で、1つの問題にばかりにかかずらってはられない。そのことを理解したうえでなお、貧困における連鎖性という特徴を鑑みて、本当の「息の長い」報道を行ってほしいと思う。そして、言葉尻を捕らえるだけのようなこの文章によって、誰か一人でも、そのことに思いを巡らせられたなら、それは私にとって、望外の喜びである。

※塚澤誠志郎は、嘉納の指導の下、2016年度報道の貧困関連記事を集録し（嘉納英明著『子どもの貧困問題と大学の地域貢献』沖縄タイムス社、2017年、所収）、総合研究所「特定研究」期間においても記事収集を継続した。その取りまとめを報告する。

2017年度の新聞報道記事 略記

沖タ＝沖縄タイムス 琉新＝琉球新報

日付	タイトル	新聞名
0401	未来支える「子の貧困」に700万円 JTA寄付	沖タ
0401	「給付型奨学金改正法案が成立」	沖タ
0402	未来支える「開業記念で「恩返し」 オリエンタルヒルズ 30万円寄付	沖タ
0404	未来支える「子の貧困 家庭支援探る」	沖タ
0404	未来支える「飲食店常連 子ども支援」	沖タ
0405	「教育無償化、百家争鳴」	琉新
0411	「少女の保護 1年に12件 子どもシェルター」	沖タ
0412	「「相対的貧困」認識を」	琉新
0413	「子の貧困対策 事業拡大 支援員や居場所増」	沖タ
0414	「子の自立支援に期待 石垣 小規模養護施設開所」	沖タ
0416	「生活困窮世帯で学習理解度低下 大阪市の子ども実態調査」	沖タ
0416	「ランドセル 入学前に」	沖タ
0420	「小中学校入学 夢支える 本社（沖タ）が入学応援給付金新設」	沖タ
0420	「沖縄子ども未来プロジェクト 支援先の活動紹介」	沖タ
0422	未来支える「弘文堂社長の妻 香典返して寄付」	沖タ
0422	未来支える「子の未来支える給付金」	沖タ
0423	未来支える「在庫の制服 困窮世帯へ」	沖タ
0424	「給付型奨学金を検討」	沖タ
0424	「給付型奨学金創設へ」	琉新
0425	子どものいま、これから「本年度新事業方向性を議論」	琉新

嘉納・塚澤： 沖縄の子どもの貧困問題に関する主な新聞記事タイトル一覧（2017年度）

日付	タイトル	新聞名
0425	「給付型奨学金 人物面も重視」	琉新
0426	こどもプロジェクト「入学支援 子の夢後押し」	沖夕
0427	「低所得世帯 窓口無料へ」	沖夕
0427	「子の医療費 窓口無料」	琉新
0428	「入学準備金 前倒し支給へ」	沖夕
0428	社説「子の医療費窓口無料 抜本的対策で貧困根絶へ」	琉新
0428	「貧困世帯の子に大学進学支援を」	琉新
0429	未来支える「高校生116人 運賃半額」	沖夕
0429	「子の貧困に10.6億円 内閣府初回分」	琉新
0429	「半額オキカ、来月支給」	琉新
0430	「子の貧困対策 10億円」	沖夕
0502	社説「入学支援金 子の門出 社会で祝おう」	沖夕
0504	「日曜祝日 一緒に楽しく」	沖夕
0505	社説「希望支える責務果たそう」	琉新
0505	論壇 與崎 安喜「人材活用、各地に無料塾を」	琉新
0509	未来支える「無料塾 募集400人に拡充」	沖夕
0509	「ひとり親支援 集中的に」	琉新
0509	子どものいま、これから「無料塾 募集増員400人」	琉新
0512	「特別養子縁組の支援へ」	沖夕
0512	「貧困改善に努力」	琉新
0513	未来支える「半額運賃で通学開始」	沖夕
0516	「子どもの貧困 生協が対策」	沖夕
0517	「北中城 子の貧困18%」	琉新
0517	「就学援助 周知に課題」	琉新
0518	未来支える「北中城 就学援助届かず」	沖夕
0519	未来支える「子育て支援へ 食事券を贈呈」	沖夕
0520	未来支える「電気・水道停止 14%経験」	沖夕
0520	「子の実態調査 嘉手納町も公表」	琉新
0521	「高等教育 授業料軽減も」	沖夕
0523	「大学の授業料「出世払い」に」	沖夕
0523	未来支える「大学進学 夢支える 県の無料塾開講」	沖夕
0524	未来支える「貧困解消向け 県民運動推進」	沖夕
0526	未来支える「子ども基金に1000万円 金秀グループ寄付」	沖夕
0531	未来支える「子ども基金に200万円 日本分蜜糖工業会が寄付」	沖夕
0602	未来支える「北谷町が給付型奨学金」	沖夕
0602	「貧困解消 支援拡充へ 子ども会議 共同事業に助成」	沖夕
0602	子どものいま、これから「貧困世帯支援を決定 子どもの未来県民会議」	琉新
0603	未来支える「子の大学志望 所得で差」	沖夕
0603	社説「子どもの貧困調査 進路選択広げる支援を」	沖夕
0603	未来支える「親の経済状況 影響大」	沖夕
0603	未来支える「解決策 初の提唱」	沖夕
0603	未来支える「入学金 進学の壁」	沖夕
0603	子どものいま、これから「正社員世帯も半数困窮」	琉新
0603	「県子どもの実態調査報告」	琉新
0603	子どものいま、これから「県子どもの実態調査」	琉新
0603	子どものいま、これから「低所得 進路に影」	琉新
0604	未来支える「県助成見直し 反対16人」	沖夕
0604	未来支える「市町村 県案と温度差」	沖夕
0604	金口木舌「沖縄子どもの貧困実態調査」	琉新

日付	タイトル	新聞名
0605	社説「子どもの貧困調査 実態踏まえ連鎖を断とう」	琉新
0606	社説「子どもの医療費 現物給付で負担減図れ」	沖夕
0608	未来支える「無料塾「よかった」80%」	沖夕
0609	未来支える「夕食ひとり」中2生13%」	沖夕
0610	「教育無償化へ施策」	沖夕
0610	未来支える「貧困対策 30万円寄付 琉球海運の宮城社長」	沖夕
0614	未来支える「子らの貧困解消 4団体に220万円」	沖夕
0614	子どものいま、これから「里親委任率など目標5項目達成」	琉新
0615	未来支える「入学準備金3月支給」	沖夕
0615	「子どもの貧困 日本下位」	琉新
0616	未来支える「石垣に塾 軽食も提供」	沖夕
0618	子どものいま、これから「当事者の要望把握を」	琉新
0618	子どものいま、これから「生徒と向き合う時間を」	琉新
0619	未来支える「困窮世帯へ食料提供」	沖夕
0619	未来支える「規格外品 子ども食堂に」	沖夕
0620	未来支える「北谷 医療窓口無料化へ」	沖夕
0620	「知っていますか？就学援助」	琉新
0621	未来支える「居場所 子の88%評価 自己肯定感 向上つながる」	沖夕
0621	子どものいま、これから「居場所、子の9割「良い」」	琉新
0625	未来支える「子の未来へ海で乾杯」	沖夕
0625	「息の長い寄り添いを タフな支援者になれますか」	琉新
0628	「見えない困難 支援必要」	沖夕
0628	「気ままに 私たちの楽園 那覇市・子ども図書館「にじの森文庫」」	沖夕
0628	「子の貧困 7人に1人 12年ぶり改善 なお高水準」	沖夕
0628	子どものいま、これから「子の貧困 全国減少14%」	琉新
0628	「子どもの貧困率 実態把握と対策を」	琉新
0628	子どものいま、これから「子の貧困30% 県民所得低さ要因」	琉新
0628	子どものいま、これから「子の貧困30% 基盤整備が急務」	琉新
0629	未来支える「貧困対策 100万円寄付 三和金属「子らのために」」	沖夕
0630	「専門校生に給付型奨学金」	沖夕
0630	未来支える「所得で負担区分 賛成11」	沖夕
0630	子どものいま、これから「こども医療費助成 36市町村、現物給付へ」	琉新
0702	こどもプロジェクト「子の貧困解消へ奮闘」	沖夕
0703	金口木舌「子の成長支える責任」	琉新
0704	未来支える「息長い取り組み期待」	沖夕
0705	「給付奨学金 数百人に」	琉新
0705	りゅうちゃん募金「県民の浄財、団体に」	琉新
0708	にっぽん診断 結城康博「奨学金 若者の貧困助長」	沖夕
0710	「給付型奨学金 人材育成の柱に据えよ」	沖夕
0712	未来支える「民間の主体性に期待」	沖夕
0712	子どものいま、これから「貧困解決へ円卓会議」	琉新
0712	子どものいま、これから「県議会特別委が県内4カ所視察」	琉新
0714	未来支える「卸商業組合が400万円」	沖夕
0715	「公民館が教室 さあ勉強」	沖夕
0719	未来支える「就学援助「足りぬ」52%」	沖夕
0719	「貧困撲滅へ10億ドル」	琉新
0719	「北谷ひとり親家庭調査 就学援助の利用49%」	琉新
0723	「子の貧困 大人が察知を」	沖夕
0726	未来支える「コンサート通し子の貧困考える」	沖夕

嘉納・塚澤： 沖縄の子どもの貧困問題に関する主な新聞記事タイトル一覧（2017年度）

日付	タイトル	新聞名
0728	未来支える「こづかい 子の支援に」	沖夕
0728	「中卒無職少年 就労向け議論」	琉新
0731	「低所得層の子 栄養格差 給食のない週末「アイス1本」	沖夕
0731	「食の貧困把握は困難」	沖夕
0802	未来支える「子の貧困 音楽で募金」	沖夕
0806	論壇 高橋大史「こども医療 権利は平等」	沖夕
0809	子どものいま、これから「子の貧困対策 34万円余寄付」	琉新
0810	未来支える「子の将来へ100万円 うえむら病院が寄付」	沖夕
0814	「児童扶養手当 2か月ごと」	沖夕
0816	社説「児童扶養手当 支給頻度上げ安定図れ」	沖夕
0816	「子の貧困 対応策探る」	沖夕
0817	使わない学用品 再利用」	沖夕
0818	未来支える「現物給付6市町村導入へ」	沖夕
0819	未来支える「肉厚ステーキ おなかも満足」	沖夕
0826	未来支える「貧困世帯 5割が赤字」	沖夕
0828	「大学授業料「出世払い」	沖夕
0830	論壇 崎間考史「子の養育費問題考えて」	沖夕
0831	「県に給付型創設要請」	沖夕
0831	社説「学力テスト 貧困の克服が鍵握る」	琉新
0903	「高校中退者に学習支援 生活困窮者世帯 対象拡大」	沖夕
0912	「本紙3記者に特別賞 貧困ジャーナリズム賞」	沖夕
0913	「教育の公的支出 日本また最下位」	沖夕
0915	未来支える「子の貧困対策30万円」	沖夕
0916	未来支える「子ども支援 南城で始動」	沖夕
0918	「沖大講座「親の子育て、就業と貧困問題」上」	琉新
0919	「教育無償化 財源で攻防」	沖夕
0919	「沖大講座「親の子育て、就業と貧困問題」下」	琉新
0922	「子育て支援へ1兆円超」	沖夕
0928	未来支える「亡き父思い10万円寄付」	沖夕
0928	「窓口無料化 全県導入へ」	沖夕
1003	アクロス沖縄 64「子どもの貧困対策支援」	沖夕
1006	「子の学習・食事・遊び支援」	沖夕
1011	「無料塾」3カ所新設 北部5町村の子支援へ」	琉新
1014	未来支える「貧困解消へ3事業助成」	沖夕
1014	「子どもの貧困 孤立防いで育ち支援」	琉新
1016	社説「子どもの貧困 公的責任から逃げるな」	沖夕
1020	社説「暮らし 不安のない将来像を示せ」	琉新
1024	「教育2兆円投資 策定急ぐ」	沖夕
1026	「ひとり親 非正規など56%」	沖夕
1026	未来支える「入学給付金 872人応募」	沖夕
1027	「不登校 貧困が背景」	沖夕
1028	未来支える「子ども支援に10万円」	沖夕
1029	寄稿 平良直樹「子の貧困深刻 救う方策探る」	沖夕
1031	「給食費滞納経験1割 学習、子育て支援に要望」	琉新
1101	「子の貧困対策費540万円交付」	琉新
1102	「子の貧困率 2割目標」	沖夕
1102	未来支える「「家庭の貧困 支援必要」」	沖夕
1105	未来支える「子ども支える方策学ぶ」	沖夕
1105	「子どもの避難所、重要性確認」	琉新

日付	タイトル	新聞名
1106	論壇 安里長従「子育て支援 発想転換を」	沖夕
1106	「教育格差の解消へ前進」	沖夕
1106	未来支える「軽妙落語 久茂地笑う」	沖夕
1108	未来支える「問題行動 裏にトラウマ記憶」	沖夕
1111	「子どもとより近く」居場所、地域で運営」	琉新
1114	「教育無償化 議論生煮え」	沖夕
1114	「精神保健福祉普及大会「貧困が子どもに及ぼす影響」	琉新
1115	「子の貧困対策に力」	沖夕
1117	未来支える「4団体への支援内定 タイムス こどもプロジェクト」	沖夕
1118	「低所得者層に重い教育費」	沖夕
1119	木村草太の憲法の新手「無償化は既に政府の義務」	沖夕
1119	「大学無償化 望む姿は」	沖夕
1120	社説「教育無償化 国会で課題 整理し直せ」	沖夕
1122	未来支える「子どもに夜間の居場所」	沖夕
1123	「子育て支援の進捗協議」	沖夕
1123	「就学援助受給 2.9万人」	琉新
1124	「生活保護の進学支援 夢を阻む「就職前提」	琉新
1125	社説「生活保護の世帯分離 時代遅れの制度廃止を」	沖夕
1125	未来支える「貧困への取り組み発信」	沖夕
1127	「子の貧困 どう支援」	琉新
1129	未来支える「生活困窮者を幅広く支援」	沖夕
1129	子どものいま、これから「子どもの貧困対策に」	琉新
1202	未来支える「子の貧困 世代で連鎖」	沖夕
1202	「子に「もう一つの家」 貧困家庭の支援」	琉新
1204	未来支える「就労支援 親と子に必要」	沖夕
1204	「困窮世帯の子支援 民間団体が新生活給付」	琉新
1207	未来支える「18歳 高卒後の支援課題」	沖夕
1208	「生活保護、最大1割減」	琉新
1209	「「沖縄モデル」 対策を全国に」	琉新
1212	未来支える「社会で子育て 方策探る」	沖夕
1212	「生活、就労の支援必要」	琉新
1212	「夜間中学開設へ県が調査委設置」	琉新
1213	未来支える「貧困解消目指す 4団体に支援金」	沖夕
1213	社説「学童 待機最多 放課後保障どの子にも」	沖夕
1215	「つながり支える場 提案」	琉新
1219	未来支える「650人に入学応募金」	沖夕
1219	未来支える「就学援助受給 3万人超」	沖夕
1220	未来支える「230万円相当食料 子の食堂へ寄贈」	沖夕
1220	「地域学校協働活動の推進 浦西中校区が文科大臣賞」	琉新
1221	未来支える「子の貧困解消50万円」	沖夕
1224	社説「母子世帯調査 法整備で困窮要因断て」	沖夕
1226	「子の居場所 課題探る」	沖夕
1230	「子どもたちの笑顔 うれしい」	沖夕
1231	未来支える「ゴルフコンペで寄付呼び掛ける」	沖夕
2018		
0111	沖縄の学童保育「待機児童 難しい実数把握」	沖夕
0111	未来支える「匿名男性500万円寄付」	沖夕
0115	未来支える「北海道から特産品」	沖夕
0118	「児童福祉法 沖縄の空白」	琉新

嘉納・塚澤： 沖縄の子どもの貧困問題に関する主な新聞記事タイトル一覧（2017年度）

日付	タイトル	新聞名
0122	「子育て世帯の4割減額」	沖夕
0122	「子育て世帯4割減額へ」	琉新
0202	未来支える「匿名の善意 函館から」	沖夕
0203	社説「子の医療費窓口無料 健康格差是正につなげ」	沖夕
0203	未来支える「酒房と常連客が寄付」	沖夕
0203	「子どもの未来基金に本印税20万円寄付「沖縄貧困白書」委員ら」	琉新
0207	どうする「学童」「学童 公的施設の活用を」	沖夕
0207	未来支える「子ども支援 課題探る」	沖夕
0207	「県内・子の貧困基金 5団体計2億円超」	琉新
0208	「子の貧困対策検証」	琉新
0211	社説「バス通学費補助 負担軽減さらに拡充を」	沖夕
0214	未来支える「652人の入学応援 2306万円を給付」	沖夕
0214	「低所得世帯7割 子どもの塾断念」	琉新
0217	未来支える「子の支援に1000万円 國場組、3団体へ寄付」	沖夕
0218	未来支える「子の貧困 課題を共有」	沖夕
0222	「講座「子どもの貧困対策論」詳報（上）」	琉新
0224	未来支える「支援の心届ける 収益31万円贈呈」	沖夕
0224	未来支える「子の成長願い 50万円を寄付」	沖夕
0224	「講座「子どもの貧困対策論」詳報（下）」	琉新
0301	未来支える「支援の心 新1年生に希望」	沖夕
0305	社説「特別養子仲介 子どもも母親も幸せに」	沖夕
0306	未来支える「子の将来 自販機で手助け」	沖夕
0309	「子の貧困対策 187億円計上」	琉新
0310	「就学援助 西原町が半減へ」	沖夕
0311	「西原町就学援助 予算減で半数に」	琉新
0312	「輝く未来へ 支援全力」	沖夕
0318	「支え合い 孤立防ぐ 地域から広がる共助の輪」	琉新
0319	未来支える「貧困対策「子の目線で」	沖夕
0323	「通学費支援を拡大 未来県民会議」	琉新
0324	未来支える「「自分たちも成長実感」	沖夕
0324	「「夢へ頑張る」「社会に貢献」	沖夕
0324	「若年出産 苦しい家計／上間教授44人調査」	沖夕
0325	「教育支援の継続訴え」	沖夕
0325	「若手子育て女性 困窮」	琉新
0327	「子の貧困、解消に一役のうれんマルシェにぎわう」	琉新
0328	「子ども支援に地域差」	沖夕
0329	未来支える「「将来の選択肢 狭めぬ社会を」	沖夕
0329	「虐待 貧困対策で課を新設」	沖夕
0330	未来支える「第一総業50万円 未来基金へ寄付」	沖夕